佐渡市地域クラブ活動

指導の手引き

～目指せ指導者マスター～

令和5年8月作成

佐渡市教育委員会 社会教育課

地域クラブ活動で生徒を育てよう

生徒を取り巻く環境

- 限られた部活動の種目しか体験できない
- メディアに費やす時間が多くなっている
- 少子化や価値観の多様性から人との関わりが少なくなっている

地域クラブ活動では

- 各種スポーツ活動や多様な文化活動が体験できます
- 実体験による喜びが得られます
- 他校の生徒や異年齢の方々との交流が生まれます

指導者として心得ておきましょう！

○好きこそものの上手なれ

中学 1～3 年生の時期は、生涯学習・生涯スポーツの基礎を培う重要な期間です。この時期に楽しく活動できる体験は、卒業後も続ける趣味につながる可能性があります。時には難しさや苦しさの体験も必要ですが、スポーツや文化活動を通してその種目の特性を生かした楽しさを伝えられる指導者を目指しましょう。**特に、エンジョイ型はその種目を楽しむための設定です。その種目の魅力が生徒に伝わるように指導してください。**

＊「外発的動機づけ」ではなく「内発的動機付け」をすることで

⇒目標に向かって夢中で取組むようになる。

⇒自分でより良い方法を考えて工夫して取り組むようになる。

○生徒を一人の人格者と見なす

指導を続けていくと時には思い通りにならない生徒の言動に出会うかもしれません。その場の感情に流されての叱責は許されません。子どもとは言え一人の人間であることを忘れてはいけません。生徒の人格を尊重し、励ましやサポートを続けることができる指導者を目指しましょう。肉体的、精神的な負荷を伴う厳しい指導と体罰等の許されない指導とをしっかり区別しましょう。

○自身の言動がハラスメントになっていないかチェック

ハラスメントとは、相手に対して言葉や行動などで過度に苦痛を与えることです。行った側にはそうした気持ちがなくても、受けた側には傷ついたり不利益をこうむったりした場合にはハラスメントになります。ハラスメントには、いくつかの種類があります。自分の言動がこれらのハラスメントに該当しないか確認する必要があります。

＊パワーハラスメント

指導者が子どもに対して行われることがあります。殴る、蹴る、たたくなど身体的苦痛を与える場合や、必要以上に大声で叱責したり一人だけ練習から外したりするなど精神的苦痛を与える場合があります。

＊セクシャルハラスメント

性的な言動によって苦痛を与える場合です。必要がないのに体に触れることや体型的なことに関する言動がこれに当たります。

「男のくせに～」とか「女のくせに～」など性別によって行為を限定する言葉がけもセクシャルハラスメントになります。（ジェンダーハラスメントとも言う）

＊モラルハラスメント

肉体的な苦痛ではなく言葉や態度で継続的に相手を傷つける精神的な嫌がらせです。嫌がらせの行為が外部の人からは見えにくく隠ぺいが行われやすいです。無視したり努力が認めなかったりといったことが続く場合がこれに当たります。

○研修会に参加して学ぶ

「指導する立場にいる者は、他人を指導できるだけの人間になるべく、自分自身を鍛えていかなければいけない」　　川上哲治（元読売巨人軍監督）

経験した種目だからとか指導の経験があるからという判断から自己流で教えていては進歩がありません。生徒も年ごとに変わりますし、スポーツではルールが変わる場合もあります。研修会がある時には積極的に参加し指導者としての力量を高めましょう。

指導力の向上に向けて

○　最新の研究成果等を踏まえた科学的な指導内容、方法を積極的に取り入れましょう。

○　多様な面で指導力を発揮できるよう、継続的に資質能力の向上を図りましょう。

○コミュニケーションを大切に

指導者同士や参加する生徒とのコミュニケーションを大切にしましょう。地域クラブ活動は互いに初めて出会う場合も多くあります。特に中学生は緊張することが予想されます。指導者側から積極的に話しかけるようにしましょう。適切な指導方法、コミュニケーションの充実等により、生徒の意欲や自主的自発的な活動を促しましょう。

＊やる気を高める言葉がけの機会を

⇒練習中に活動を中断してその動きの意味を考えさせる。

⇒練習後の振り返りで今日の取組を反省させ評価を加える。

⇒練習ノートの作成により生徒の内言語にコメントで回答する。

○「ティーチング」と「コーチング」をバランスよく

「ティーチング」は、答えを相手に求めず教えることです。その結果、指導を受ける側は受け身になりがちで自ら考えることなく指導者の言動に依存するようになるため創造性や応用力が育ちにくくなります。

「コーチング」は、相手の答えを引き出しながら指導することです。双方向のコミュニケーションの過程を経ることでやる気や自信につながり生徒の意欲が高まります。

これら一方に偏ることなく、ケースバイケースで適切な指導法を考えて進めていきましょう。

○中学生の発達段階の理解を

中学生の時期は、思春期に入り、親や友達と異なる自分独自の内面に気付き始める頃です。自分はどんな人間なのかを知り社会とどのように関わりをもつかを考え始めます。仲間同士の評価を強く意識する反面、他者との交流に消極的な傾向も見られます。

もちろん個人差もありますので人によって違いがありますが、自己を見つめて悩み考えている時期であると言えます。この発達段階の特性をよく理解して指導していきましょう。

○佐渡市の中学生を育てるという気持ちで

各種団体としては、より多くのメンバーを獲得したいという思いがあるかもしれません。地域クラブ活動によって参加した種目を継続して取り組みたいという想いは大切にしていきたいものです。

しかし、生徒の想いを超えた勧誘をしたら悩ませることになります。ましてや、種目による生徒の取り合いは避けなければなりません。生徒の想いを大切にし、生徒がどの種目を選択しても佐渡市の生徒を育てるという大局的な立場で指導していきましょう。

【参考資料】

「運動部活動用指導手引」　　スポーツ庁

「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」　　文化庁